

# 共同礼拝

2022年5月8日(日) 午前10時30分

午後2時

司式 牧師 姜 匠米

前 奏

招 詞 詩編 29編1b～2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

詩 編 16編7～11節 (旧846)

マタイによる福音書 8章23～27節

(新14)

祈 禱

使徒信条

役員(長老)任職式 教会学校校長任職式

讃 美 歌 121 (1)

説 教 「この人は誰か」

牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 285 (1)

献 金

頌 栄 543

祝 禱

黙 禱

## 5月の祈り

天に昇り全能の父なる神の右に座しておられる主を見上げ、その御心が地に行われるように。

教会総会後の新たな教会の歩みが主に導かれ力づけられるように。

会堂での礼拝と自主礼拝・音声配信による礼拝を守っている兄弟姉妹とが聖霊によって結ばれ、主の体の肢として形成されるように。

戦火が早く止み人々の生活が回復されるように。  
弱い立場の人々や子どもたちが守られるように。

## 今日の祈り

役員(長老)会、教会学校の働きと奉仕者一人々々支えられ力づけられるように。

礼拝堂の礼拝と音声配信により礼拝を守る人々と主にあって結ばれているように。

コロナ禍が乗り越えられ、教会の歩みが回復に向かうことができるように。

「この人は誰か」

高橋和人

マタイによる福音書 8:23～27

主イエスは船に乗り込まれた。弟子たちも従った。ガリラヤ湖は周囲53キロの大きく豊かな湖である。周囲の人々の生活を支えてきた。

しかし、対岸は違った生活の地域であり、距離以上に疎遠であった。主イエスはそこに行かれようとした。十数キロの穏やかであれば日常的な航程だ。弟子たちの中心は漁師であり、操船には慣れていった。しかし、突然の激しい嵐が起こり、船は波にのまれそうになった。漁師たちにさえ恐怖心をもたらすほどであった。

教会は船になぞらえられた。礼拝堂の平面には船の構造の名前が使われたという。教会とは同じ船に

乗ることに似ている。そこから落ちれば水に引き込まれてしまう。

湖は「海」と同じ文字、海は底知れず行く手をはばむもの。

主は眠っておられた。弟子たちの危機にすぐに対応されない。危機に際して主が眠っておられるのかと思える時がある。

弟子たちは主を起こし「主よ、助けてください」と叫ぶ。漁師が船の経験のない主イエスに助けを求めている。専門家である彼らの経験や技術では役に立たないのである。

弟子たちの危機、信仰の危機には人の知恵と力が役に立つわけではない。主は「信仰の薄いものたち」と呼ばれる。信仰の小ささを指摘される。信仰の小ささが恐れを呼ぶ。溺れることは死を意味する。

信仰の小ささを知ることは、主に頼るほかにないことを知ることである。われらは信仰の小さなものたちだ。信頼して、ついて行くことができるのみだ。

主は、舵をとったり、弟子たちに助かる方法を教えたわけではない。風と湖を叱られた。ご自分の権能を示された。出エジプト14:21では主なる神が東風をもって海を押し返されて、それがエジプト軍からのイスラエルの救いとなった。

詩編78:17は「大水はあなたを見て、身もだえし」78:20「あなたの通られる道は大水の中にある」という。それは聖書が大水の危機にこそ、神の道があることを経験してきているからだ。

人の歩みには嵐がある。小さく薄い信仰だからこそ、主イエスに頼り、そのあとについて行くのみだ。教会も同様である。